

令和8年度全国学力・学習状況調査

秋田県 調査結果の概要

～調査結果から見られた成果と 課題改善に向けた取組のポイント～

秋田県検証改善委員会では、全国学力・学習状況調査の教科調査及び質問調査の結果を基に成果と課題を分析し、課題改善に向けた取組のポイントをまとめた「秋田県 調査結果の概要」を作成いたしました。

学校における検証改善サイクルを機能させた授業改善の取組の更なる充実に向けて、本概要を活用してください。



調査結果の概要①

国語

- ・ 小学校第6学年 国語
- ・ 中学校第3学年 国語

調査結果の概要②

算数・数学

- ・ 小学校第6学年 算数
- ・ 中学校第3学年 数学

調査結果の概要③

英語

- ・ 中学校第3学年 英語

調査結果の概要④

質問調査

- ・ 主体的・対話的で深い学び
- ・ ICTを活用した学習状況 等

秋田県教育庁義務教育課

小学校第6学年 国語

◇平均正答率

()内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の内容						問題形式		
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			選択式	短答式	記述式
		(1)	(2)	(3)	A	B	C			
全国	60.9	66.8	52.3	—	65.8	45.7	65.9	61.9	62.6	54.9
秋田県	65	73.5 (+6.7)	57.0 (+4.7)	—	67.4 (+1.6)	48.4 (+2.7)	70.6 (+4.7)	64.6 (+2.7)	71.1 (+8.5)	62.4 (+7.5)
自校										

(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項 A話すこと・聞くこと B書くこと C読むこと

概要

○平均正答率は、4ポイント程度、全国平均を上回っています。
 ○「B書くこと」において2ポイント以上、「C読むこと」において4ポイント以上、全国平均を上回っています。また、問題形式において、「短答式」は8ポイント以上、「記述式」は7ポイント以上、全国平均を上回っています。
 ●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することや、筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考えることに課題が見られます。

小学校第6学年 国語 調査結果から見られた成果

◇設問ごとの顕著な例 【2三ア・イ】

暑いときは、そでが ア みじかい方がすずしいのではないかと。

なぜ、長そでの服を着ているのか イ ふしぎに思い、暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふうについて調べることにした。

(正答)
 ア「短い」、イ「不思議」と解答しているもの

○ 成 果

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題

(上段：ア 下段：イ)

自校	秋田県	87.7 (+7.7)	全国	80.0
		54.4 (+9.2)		45.2

三 花山さんは、「花山さんの文章の一部」を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた部分ア、イを漢字に書き直すことにしました。次の部分ア、イを漢字で正しい書きましよう。

※【花山さんの文章の一部】は略。実際の調査問題を参照してください。

2 花山さんの学級では、夏を快適に過ごすためのくふうについて調べて考えたことを書き、友達と報告し合うことにしました。花山さんは、「暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう」について調べ、文章を書いています。次の【花山さんの文章の一部】をよく読んで、あとの問いに答えましよう。

◇設問ごとの顕著な例 [2四]

2
花山さんの学級では、夏を快適に過ごすためのくふうについて調べて考えたことを書き、友達と報告し合うことになりました。花山さんは、「暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう」について調べ、文章を書いています。次の【花山さんの文章の一部】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

※【花山さんの文章の一部】は略。実際の調査問題を参照してください。

四
花山さんは、【集めた情報】をもとに、「すずしく過ごせる衣服の色は何か」について考えたことを【花山さんの文章の続き】に書いています。あなたが花山さんなら、 に記入内容を、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

※【集めた情報】、【花山さんの文章の続き】は略。実際の調査問題を参照してください。

〈条件〉

- 【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、ぬき出して書くこと。
- ぬき出した本文の題名と本文の一部の内容はかぎっこ（「 」）でくくっている。
- ぬき出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書くこと。
- 百四十文字以内にまとめて書くこと。

(正答の条件)
次の条件を満たして解答している。
① 【集めた情報】の中から、以下のことを抜き出して書いている。
a 本の題名
b 本文の一部の内容
② 抜き出した部分をかぎ（「 」）でくくっている。
③ 涼しく過ごせる衣服の色について考えたことを書いている。
④ 140字以内で書いている。

○ 成 果					
引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題					
自校		秋田県	40.7 (+7.2)	全国	33.5

◇設問ごとの顕著な例 [3三(2)]

3
林さんの学級では、自分の心に残った文章について考えたことをまとめることにしました。林さんは、「『苦手』と『嫌い』」という題名の文章を選んで読んでいます。次は、林さんが読んだ【文章】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

※【文章】は略。実際の調査問題を参照してください。

三
林さんは、【文章】を読んで、自分の考えをまとめるために、同じ文章を読んだ小川さんと話し合うことにしました。次の【話し合いの様子の一部】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

※【話し合いの様子の一部】は略。実際の調査問題を参照してください。

(2)
林さんは、小川さんと話し合ったことをもとに、改めて【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめることにしました。あなたなら、【文章】を読んで考えたことをどのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 【文章】を読んで、考えたことを書くこと。
- 【文章】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- あなたの経験を書くこと。

(正答の条件)
次の条件を満たして解答している。
① 【文章】を読んで考えたことを書いている。
② 【文章】から言葉や文を取り上げて書いている。
③ 自分の経験を書いている。

○ 成 果					
文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題					
自校		秋田県	84.2 (+7.8)	全国	76.4

◇設問ごとの顕著な例 [1二(1)]

▲ 課 題					
資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題					
資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題が見られます。					
自校		秋田県	57.2 (-3.0)	全国	60.2

☆改善に向けた取組のポイント

資料の活用による効果を予想しながら考えられるよう指導することが大切です。目的や相手、状況などを踏まえて、話す内容と資料との整合、適切な時間や機会での資料の提示の仕方などに注意するよう指導する必要があります。聞き手の興味・関心や情報量などを予想し、どのような情報を求めているかについて考えるなど、相手や目的を一層意識して表現を工夫できるようにする必要があります。

二 岡野さんたちのグループは、「構成メモ」をもとに、「中①」を次の【動画の一部】のようにさつえいしました。これをよく読んで、あとの(1から(3)の問いに答えましょう。

※【岡野さんたちの考え】【構成メモ】【動画の一部】は略。実際の調査問題を参照してください。

- (1) 岡野さんたちのグループは、「動画の一部」をくふうしてさつえいしました。そのくふうとして適切なものを、次の1から5までのの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。
- 1 草花で遊べる場所への行き方を映像で示すことで、草花遊びへの関心を高めている。
 - 2 くき笛の実際の音を示すことで、言葉の説明だけでは分かりにくい内容が伝わるようにしている。
 - 3 くき笛を作る映像に文字の説明を加えて示すことで、遊び方の手順が伝わるようにしている。
 - 4 くきの長さを映像で比べて示すことで、くき笛にしやすいたんぽぼを見分けやすくしている。
 - 5 手元や口元を大きく映して映像で示すことで、くき笛の遊び方が伝わるようにしている。

1 岡野さんの学級では、学校生活をより楽しくするために、休み時間の過ごし方を動画にして学校のみんなにしようかという話しをしました。岡野さんたちのグループは、草花遊びをしようかという話しをしています。次の【岡野さんたちの考え】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

解答類型		秋田県	全国
◎	2・5と解答しているもの	57.2	60.2
	2と解答しているが、5と解答していないもの	19.6	18.2
	5と解答しているが、2と解答していないもの	20.3	17.8

◇設問ごとの顕著な例 [2一]

▲ 課 題					
筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる問題					
筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開考えることに課題が見られます。					
自校		秋田県	56.1 (-1.8)	全国	57.9

☆改善に向けた取組のポイント

文章全体の筋道を整えるためにどのようなつながりや配列があり、それぞれの効果について、教師が整理しておくことが大切です。その上で、児童が「読み手にどのように読み進めてほしいか」という目的を明確にし、児童自身が目的に応じて、ふさわしいつながりや配列を考えて書き表すことができるようにすることが重要です。つながりや配列を意識することができない児童等に対しては、これまで扱ってきた説明的な文章を想起し、筆者の論の進め方や、その効果を整理する場面を設定することなどが考えられます。

※【花山さんの文章の一部】は略。実際の調査問題を参照してください。

一 【花山さんの文章の一部】まで書き進めた花山さんは、読み手もいっしょに考えて読むことができる文章になっているかどうかを確かめています。花山さんの文章のくふうを説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 調査の目的や手順、調査結果を順序立てて書いている。
- 2 結論を最初に述べ、それを支える事例を複数取り上げて書いている。
- 3 疑問と調べて分かったこと、次の疑問をくり返して書いている。
- 4 複数の事例の長所と短所を比べて書いている。

2 花山さんの学級では、夏を快適に過ごすためのくふうについて調べて考えたことを書き、友達と報告し合うことにしました。花山さんは、「暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう」について調べ、文章を書いています。次の【花山さんの文章の一部】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

解答類型		秋田県	全国
◎	1 と解答しているもの	26.4	25.2
	2 と解答しているもの	10.5	9.4
	3 と解答しているもの	56.1	57.9
	4 と解答しているもの	6.6	6.4

小学校第6学年 国語 質問調査の結果から

◇国語の学習に関連する質問における特色

〔児童質問(55)〕「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」

○肯定的な回答をした児童の割合	自校		秋田県	93.6 (+3.2)	全国	90.4
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

〔児童質問(59)〕「5年生までにうけた授業では、国語の授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていましたか」

○肯定的な回答をした児童の割合	自校		秋田県	84.3 (+6.0)	全国	78.3
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

〔学校質問(48)〕「前年度までに、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるような指導を行いましたか。」

○肯定的な回答をした学校の割合			秋田県	97.6 (+0.5)	全国	97.1
-----------------	--	--	-----	----------------	----	------

〔児童質問(31-1)〕「読書は好きですか」

●肯定的な回答をした生徒の割合	自校		秋田県	65.2 (—)	全国	—
-----------------	----	--	-----	---------------	----	---

読書の意義については理解していると考えられ、〔児童質問(31-2)〕「読書は役に立つと思いますか」については肯定的な回答が8割を超えています。一方、本質問が初めて出された平成19年(本県75.6)と比較すると、肯定的な回答は10ポイント以上減少しています。

☆課題の改善と指導の充実に向けた取組のポイント

読書の楽しさや有効性を実感しながら、日常生活の中で主体的、継続的に読書活動を充実させるためには、本などの中から自分を支える言葉を見付けたり、今までになかった考えを発見したりすることなどによって、読書の意義をより強く実感することが大切です。国語の授業においては、読書の指導事項の系統を踏まえ、読書が自分の考えを広げることなどに役立つことに気付かせることが必要です。

中学校第3学年 国語

◇平均正答率

()内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の内容						問題形式		
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			選択式	短答式	記述式
		(1)	(2)	(3)	A	B	C			
全国	63.9	63.0	70.4	—	63.9	67.4	59.7	72.7	55.8	45.5
秋田県	67	66.1 (+3.1)	72.0 (+1.6)	— —	66.3 (+2.4)	71.2 (+3.8)	62.3 (+2.6)	74.7 (+2.0)	60.7 (+4.9)	49.3 (+3.8)
自校										

(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項 A話すこと・聞くこと B書くこと C読むこと

概要

○平均正答率は、3ポイント程度、全国平均を上回っています。
○「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の全てにおいて2ポイント以上、全国平均を上回っています。

◇設問ごとの顕著な例 [3ー]

3 ア 取る
2 ア 撮る
1 ア 捕る
イ 撮る
イ 取る
イ 捕る

(正答の条件)

次の条件を満たして解答している。

- ① (1)について、「採(る)」と解答している。
② (2)について、1を選んでいる。

○成果

文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる問題

自校

秋田県

47.9
(+8.1)

全国

39.8

(2) 〓 線部アとイの正しい漢字の組み合わせとして最も適切なものを、次の1から3までの中から一つ選びなさい。

(1) 「石井さんが書き加える一文」の「多数決をどる」と、「文書作成ソフトに表示された意味と用例」の「□る」の〓 線部には同じ漢字が入ります。「多数決をどる」の〓 線部のひらがなを漢字に直し、楷書で正しい漢字に書きなさい。

※ 「石井さんが書き加える一文」 「文書作成ソフトに表示された意味と用例」は略。実際の調査問題を参照してください。

一 石井さんは、「石井さんが書いている随筆」の〓 ところに、一文を書き加えようとしています。次の「石井さんが書き加える一文」と「文書作成ソフトに表示された意味と用例」を読んで、あとの問いに答えなさい。

※ 「石井さんが書いている随筆」は略。実際の調査問題を参照してください。

3 石井さんは、国語の時間に、文書作成ソフトを使って随筆を書いています。次の「石井さんが書いている随筆」を読んで、あとの問いに答えなさい。

◇設問ごとの顕著な例 [3二]

(正答の条件)
次の条件を満たして解答している。

① 「私の気持ちもどんどん明るくなって、 ペダルをこいだ。」の に、前後がつながるような言葉を入れて書いている。

② 明るくなった気持ちがより伝わるように、「どんどん」、「明るく(なって)」以外の言葉を入れて、以下のように表現を工夫して書いている。

a 比喩的な表現や反復などを使って工夫している。

b 比喩的な表現や反復などを使わず、行為や心情を表す語句などを使って工夫している。

○ 成 果					
表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる問題					
自校		秋田県	94.7 (+2.4)	全国	92.3

3 石井さんは、国語の時間に、文書作成ソフトを使って随筆を書いています。次の【石井さんが書いている随筆】を読んで、あとの問いに答えなさい。

※【石井さんが書いている随筆】は略。実際の調査問題を参照してください。

二 石井さんは、【石井さんが書いている随筆】の――線部「私の気持ちもどんどん明るくなって、 ペダルをこいだ。」の について、どんどん明るくなった私の気持ちがより伝わるように、表現を工夫しようとしています。あなたならどのように書きますか。

に「どんどん」、「明るく(なって)」以外の言葉を入れて、文を完成させなさい。

◇設問ごとの顕著な例 [4三]

(正答)
3と解答しているもの

○ 成 果					
目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるかどうかをみる問題					
自校		秋田県	71.9 (+3.2)	全国	68.7

4 林さんは、擬音語（擬声語）・擬態語に興味をもち、次の文章を読んでいます。あとの問いに答えなさい。

※中田智子「会話の表情を表す擬音語・擬態語」による文章は略。実際の調査問題を参照してください。

三 林さんは、本文に書かれている会話の表情を表わす擬音語・擬態語の特徴を、次のようにまとめています。次の に入る言葉として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

1 声に出して言った言葉を文字にして正確に伝える

2 実際に話した内容を整理しながら筋道立てて伝える

3 口調や顔つきなど話し方の様々な要素をまとめて表す

4 声の大きさなど話し方の要素の一つを他の要素と区別して表す

会話の表情を表わす擬音語・擬態語は、 ことができる。

◇設問ごとの顕著な例 [3四]

▲ 課 題					
表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる問題					
表現の工夫とその効果について、交流を通して得られた、読み手からの感想や助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことに課題が見られます。					
自校		秋田県	50.8 (+5.8)	全国	45.0

☆改善に向けた取組のポイント

「書くこと」の学習における「共有」では、読み手からの感想や助言を基に自分の文章を振り返り、次の書く活動にどう生かすかを考えることができるように指導することが大切です。例えば、書き手が工夫した表現について、読み手に意図が伝わったかどうかを確かめたり、読み手が効果的だと感じた表現を伝え合ったりして、次の書く活動へ生かす具体的な視点を得る学習活動が考えられます。

※
【①段落についての交流場面①・②】
【メモ①・②】は略。実際の調査問題を参照してください。

四
石井さんは、自分が書いた文章について、山田さん、田中さんと交流し、この文章のよい点や改善点と、それを踏まえた今後随筆を書くときに生かしたいことをメモにまとめています。あなたがどのように書きますか。
【①段落についての交流場面①】をもとにした【メモ①】の書き方を参考にしながら、【①段落についての交流場面②】をもとにして【メモ②】を書きなさい。

※
【石井さんが書いている随筆】は略。実際の調査問題を参照してください。

3
石井さんは、国語の時間に、文章作成ソフトを使って随筆を書いています。次の【石井さんが書いている随筆】を読んで、あとの問いに答えなさい。

(正答の条件)
次の条件を満たして解答している。
① <よい点や改善点>の欄に、「相棒」と表現したことについてのよい点や改善点について、【①段落についての交流場面②】の内容を基にして書いている。
② <生かしたいこと>の欄に、<よい点や改善点>の欄に書いたことを踏まえて、比喩の使い方などについて、今後随筆を書くときに生かしたいことを書いている。

解答類型		秋田県	全国
◎	条件①、②を満たして解答しているもの	50.8	45.0
	条件①を満たし、条件②を満たさな いで解答しているもの	10.0	9.4
	条件②を満たし、条件①を満たさな いで解答しているもの	17.1	17.0
	上記以外の解答	15.6	17.9

◇設問ごとの顕著な例 [4四]

▲ 課 題					
文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる問題					
文章を読み、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の過程を通して理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題が見られます。					
自校		秋田県	40.9 (+2.0)	全国	38.9

☆改善に向けた取組のポイント

文章を読んで自分の考えを確かなものにするためには、「構造と内容の把握」「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことと、具体的な場面とを結び付けるなどして、自分が文章をどのように解釈したのかを改めて振り返ることが大切です。例えば、文章を読んで理解したことを他者に説明したり、自分の考えやその根拠を確かめたりする学習活動が考えられます。

(正答の条件)
次の条件を満たして解答している。
① <例文2>の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書いている。
② 「きっぱり」について考えたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書いている。

※
【具体的な場面】、
【例文1】、
【例文2】、
条件1、条件2は略。実際の調査問題を参照してください。

四
林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、【具体的な場面】を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、【例文1】と【例文2】を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。
あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。

※
中田智子「会話の表情を表す擬音語・擬態語」による文章は略。実際の調査問題を参照してください。

4
林さんは、擬音語（擬声語）・擬態語に興味をもち、次の文章を読んでいます。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

解答類型		秋田県	全国
◎	条件①、②を満たして解答しているもの	12.5	39.3
	条件①を満たし、条件②を満たさな いで解答しているもの	19.3	35.1
	条件②を満たし、条件①を満たさな いで解答しているもの	0.1	2.5
	上記以外の解答	12.1	4.9
	無回答	20.2	18.3

中学校第3学年 国語 質問調査の結果から

◇国語の学習に関連する質問における特色

〔生徒質問(53)〕「国語の勉強は好きですか」

○肯定的な回答をした生徒の割合	自校		秋田県	69.9 (+12.7)	全国	57.2
-----------------	----	--	-----	-----------------	----	------

〔生徒質問(58)〕「前年度までに受けた授業では、国語の授業で、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめていましたか」

○肯定的な回答をした生徒の割合	自校		秋田県	90.9 (+6.1)	全国	84.8
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

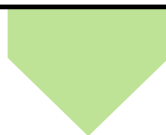
〔学校質問(46)〕「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、国語の授業で、生徒に学習の状況について改善すべき点を伝え、改善できるように手立てを講じることが行いましたか」

○肯定的な回答をした学校の割合			秋田県	98.0 (+1.1)	全国	96.9
-----------------	--	--	-----	----------------	----	------

〔生徒質問(59)〕「1、2年生のときに受けた授業では、国語の授業で、文章を書いた後に、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしていましたか」

●肯定的な回答をした生徒の割合	自校		秋田県	83.8 (+7.7)	全国	76.1
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

肯定的な回答をした生徒の割合は全国平均を上回っていますが、「書くこと」における「共有」に関する調査問題〔三四〕の結果から改善の余地があると考えられます。



☆課題の改善と指導の充実に向けた取組のポイント

生徒質問調査の結果と学校質問調査〔学(48)〕では、生徒・学校ともに肯定的な回答が多く、日頃から、文章を書いた後に、読み手からの助言などを踏まえて自分の文章のよい点や改善点を見いだす活動が行われていることがうかがえます。一方で、調査問題〔三四〕の結果にも表れているように、互いの文章を読み合う上で、よい点や改善点を的確に見付けることに課題があると考えられます。「書くこと」の「共有」の場面では、書き手の目的と意図を理解した上で、具体的な記述を取り上げて助言や感想を伝えることができるように、読み手としての力を育成することが必要です。例えば、「読むこと」の学習で文章の構成や表現の効果などについて考えたことを踏まえて「書くこと」の学習を行うなど、領域を相互に関連付け、総合的に国語の資質・能力を育成できる単元を構想することが重要です。

小学校第6学年 算数

◇平均正答率

()内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の領域					問題形式		
		A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	選択式	短答式	記述式
全国	56.4	61.1	55.3	78.1	41.1	48.6	56.0	59.7	48.5
秋田県	58	62.6 (+1.5)	54.5 (-0.8)	77.8 (-0.3)	39.7 (-1.4)	51.6 (+3.0)	57.4 (+1.4)	58.9 (-0.8)	54.2 (+5.7)
自校									

概要

- 「Dデータの活用」の領域において、3ポイント程度全国平均を上回っています。
- 「記述式」の問題形式において、6ポイント程度全国平均を上回っています。
- 無解答率は、全ての問題で全国平均を下回っています。
- 「C変化と関係」の領域において、1ポイント以上全国平均を下回っています。

小学校第6学年 算数 調査結果から見られた成果

◇設問ごとの顕著な例 【3(3)】【A数と計算】

③ たいがさんとひまりさんは、1から9までの数字が書かれた9枚のカードを使って遊びます。

(3) たいがさんたちは、【ルール3】で遊ぶことにしました。

【ルール3】

①引いたカード3枚のうち、2枚を $\square$ に当てはめて分数をつくります。

$$\frac{\square}{\square}$$

②大きい数をつくった方が、勝ちです。

たいがさんは、 $\square 3$ $\square 4$ $\square 7$ を引きました。



どちらの方が大きいのかな。

$$\frac{7}{3} \quad \frac{7}{4}$$

$\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ では、どちらの方が大きいですか。下のアからウまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

また、その記号を選んだわけを、数や言葉を使って書きましょう。

ア $\frac{7}{3}$ の方が大きい。

イ $\frac{7}{4}$ の方が大きい。

ウ $\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ の大きさは等しい。

(正答)

【記号】 ア

【わけ】 (例) $\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ を通分すると、

$\frac{7}{3}$ は $\frac{28}{12}$ 、 $\frac{7}{4}$ は $\frac{21}{12}$ なので、 $\frac{7}{3}$ の方が大きいです。

○ 成果

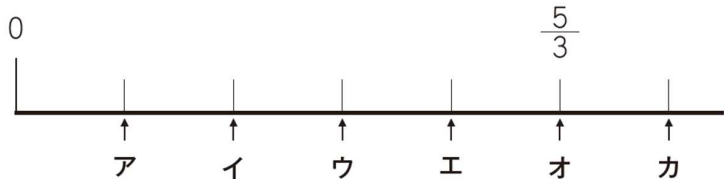
異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述する問題

自校		秋田県	51.7 (+7.7)	全国	44.0
----	--	-----	----------------	----	------

◇設問ごとの顕著な例
 [3(4)]
 【A数と計算】

3

- (4) 次の数直線でオの目もりは $\frac{5}{3}$ です。1を表す目もりはどこですか。
 下のアからカまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。



(正答) ウ

○ 成 果

単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉える問題

自校		秋田県	76.4 (+8.3)	全国	68.1
----	--	-----	----------------	----	------

◇設問ごとの顕著な例
 [4(1)]
 【Dデータの活用】

4

6年生のさくらさんたちは、1年生と仲良くなるために交流会を計画しています。交流会では6年生と1年生がいっしょに、ボール遊び、おにごっこ、昔遊びをします。

- (1) 1年生の各学級の人数は、下の表1のとおりです。

表1 1年生の各学級の人数 (人)

学級	1組	2組	3組	合計
人数	29	30	28	87

さくらさんたちは、1年生にアンケートをとり、どの遊びに参加するかを1つ選んでもらいました。
 (中略) 下の表2は、集めたアンケートを整理したものです。

表2 1年生が選んだ遊び (人)

遊び \ 学級	1組	2組	3組	合計
ボール遊び	9	14	8	31
おにごっこ	8	7	10	25
昔遊び	12	6	10	28
合計	29	27	28	84

(中略)

表1と表2を見ると、「全員分のアンケートが整理されていない学級」が1つあることがわかります。「全員分のアンケートが整理されていない学級」は何組ですか。その学級を書きましょう。

また、そのことは、表1のどの部分と表2のどの部分を比べるとわかりますか。言葉と表1と表2の の中の数を使って書きましょう。

(正答)

【学級】 2 (組)

(例) 表1の2組の人数の30と表2の2組の合計の人数の27を比べると、「全員分のアンケートが整理されていない学級」は2組と分かります。

○ 成 果

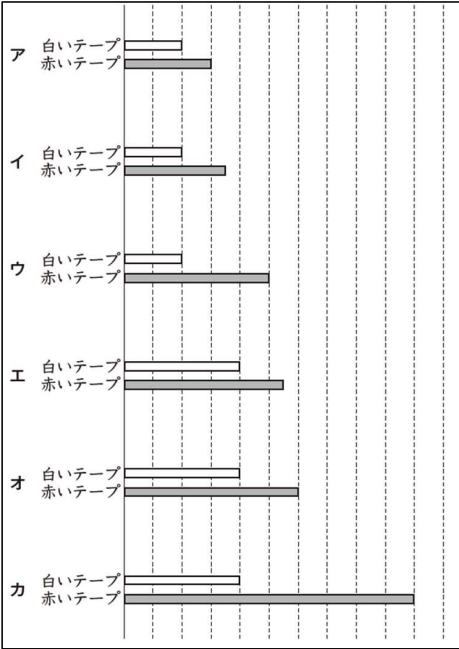
示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述する問題

自校		秋田県	64.6 (+8.4)	全国	56.2
----	--	-----	----------------	----	------

◇設問ごとの顕著な例 【2(4)】【A数と計算】【C変化と関係】

②(4)

赤いテープの長さが、
白いテープの長さの
1.5 倍になっている図
はどれですか。
下のアからカまでの
中から2つ選んで、そ
の記号を書きましょう。



解答類型		秋田県	全国
◎	ア、オ と解答しているもの	30.8	34.2
	イ、エ と解答しているもの	39.7	35.9
	ウ、カ と解答しているもの	10.4	10.2
	無解答	0.5	1.5

▲ 課 題					
基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶ問題					
基準量の 1.5倍に当たる比較量を、基準量より 1.5目盛り分多い量であると捉えた誤答が見られました。					
自校		秋田県	30.8 (-3.4)	全国	34.2

☆改善に向けた取組のポイント	
割合が整数で表される簡単な場合について、図を通して考えさせることにより、「2倍」と「2目盛り分多い」が違う意味であることを捉えられるようにします。その上で、基準量や割合を変えて同様の活動を行い、基準量の 1.5倍や 2.5倍の意味を理解できるようにすることが大切です。	

◇設問ごとの顕著な例 【4(3)】【Dデータの活用】

④ 6年生のさくらさんたちは、1年生と仲良くなるために交流会を計画しています。交流会では6年生と1年生がいっしょに、ボール遊び、おにごっこ、昔遊びをします。
(3) さくらさんたちは、前半と後半のあやとりやかるたに参加する1年生の人数を下の表にまとめました。

前半と後半の遊びごとの人数 (人)

		後半		合計
		あやとり	かるた	
前半	あやとり	4	9	13
	かるた	8	7	15
合計		12	16	28

さくらさんたちは、あやとりに参加する1年生にひもをわたします。わたすひもの本数を知るために、表からあやとりに参加する人数を調べると、次のことがわかります。

前半にあやとりに参加する人数は ㊦ 人です。
前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数は ㊩ 人です。

上の㊦、㊩に入る数を、それぞれ書きましょう。

解答類型		秋田県	全国
◎	ア 13と解答	8と解答	18.0
		8以外の解答	21.8
	イ 4又は9と解答	8と解答	25.2
		8以外の解答	24.5
無解答		2.5	3.9

▲ 課 題					
二次元の表から、条件に合う数を読み取る問題					
「前半にあやとりに参加する人数」を読み取ることができていない誤答が見られました。					
自校		秋田県	18.0 (+0.1)	全国	17.9

☆改善に向けた取組のポイント	
二次元の表において、それぞれの欄（項目ごとの値を示す欄、合計の数値を示す欄）が何を意味しているのかを理解できるようにする必要があります。そのためには、二次元の表を実際に作成し、必要な数値を読み取る活動を取り入れることで、理解を深められるようにすることが大切です。	

小学校第6学年 算数 質問調査の結果から

◇算数の学習に関連する質問における特色

〔児童質問(67)〕「前年度までに受けた授業では、図形や数直線など図が示された問題では、問題を解くときに図が役に立つと思いましたか」

○肯定的な回答をした児童の割合	自校		秋田県	91.0 (+2.7)	全国	88.3
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

問題を解決したり自分の考えを表現したりする活動に、図形や数直線を適切に用いることで、図の有用性を感じることができています。

〔学校質問(50)〕「前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか」

○肯定的な回答をした学校の割合		秋田県	98.2 (+2.7)	全国	95.5
-----------------	--	-----	----------------	----	------

体験的な活動を取り入れ、数量や図形について実感を伴った理解へとつなげる授業づくりが行われていることがうかがえます。

〔児童質問(62)〕「算数の授業の内容はよく分かりますか」

●肯定的な回答をした児童の割合	自校		秋田県	77.8 (+0.3)	全国	77.5
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

肯定的な回答が最も多かった平成30年度の89.3ポイント（全国比+5.9ポイント）から10ポイント以上低下しています。

☆課題の改善と指導の充実に向けた取組のポイント

児童が「分かった」を実感できるようにするために、誤答や不十分な説明、途中までの考え（図や式など）を意図的に取り上げるなどして困り感を共有し、つまずきの解消につながる学び合いを展開することが重要です。また、「できた」を実感できるようにするために、問題解決の際に働かせた見方・考え方や、有効だった方法を振り返る活動を取り入れたり、数値等の条件を変えた問題で学んだことを適用する場面を設定したりすることが大切です。

中学校第3学年 数学

◇平均正答率

()内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の領域				問題形式		
		A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	選択式	短答式	記述式
全国	57.0	67.8	48.7	54.8	53.5	59.3	64.2	39.1
秋田県	58	69.5 (+1.7)	47.9 (-0.8)	55.7 (+0.9)	56.9 (+3.4)	61.0 (+1.7)	65.1 (+0.9)	41.2 (+2.1)
自校								

概要

- 「Dデータの活用」の領域において、3ポイント程度全国平均を上回っています。
- 「記述式」の問題形式において、2ポイント程度全国平均を上回っています。
- 無解答率は、全ての問題で全国平均を下回っています。
- 「B図形」の領域において、1ポイント程度全国平均を下回っています。
- 正答率が全国平均を下回っている問題が6問あり、そのうちの5問は評価の観点から知識・技能の問題となっています。

中学校第3学年 数学 調査結果から見られた成果

◇設問ごとの顕著な例【6(1)】【A数と式】

⑥ 次の手順で、2つの3けたの自然数をつくります。

手順

- ① 1から9までの自然数の中から異なる2つの数を選ぶ。それを「選んだ2数」と呼ぶ。(例：1と2)
- ② 選んだ2数の大きい方を百の位と一の位とし、小さい方を十の位としてできた3けたの自然数をAとする。(例：212)
- ③ 選んだ2数の小さい方を百の位と一の位とし、大きい方を十の位としてできた3けたの自然数をBとする。(例：121)

(中略) 陸斗さんの予想

手順にしたがってできたAとBについて、
A+Bの値は、選んだ2数の和の111倍になる。

(1) 次の調べたことは、選んだ2数が2と4のときと、3と6のときについて、前ページの陸斗さんの予想が成り立つことを確かめたものです。次の [] に当てはまる式を書きなさい。

調べたこと

選んだ2数が2と4のとき、Aは424、Bは242となり、
 $A+B=424+242=666=111\times 6=111\times(2+4)$

選んだ2数が3と6のとき、Aは636、Bは363となり、
 $A+B=636+363=999=111\times 9=$ []

(正答) $111\times(3+6)$

○ 成果

問題場面における考察の対象を明確に捉えているかどうかをみる問題

自校		秋田県	79.4 (+6.2)	全国	73.2
----	--	-----	----------------	----	------

◇設問ごとの顕著な例【9(1)】【Dデータの活用】

9 保健委員の桃音さんと悠真さんは、自分たちの学校の生徒の睡眠時間の特徴について、保健だよりで報告することにした。そこで、全校生徒300人を対象に、ある日の起床時刻と就寝時刻を調査し、睡眠時間を調べました。

(1) 二人は、全校生徒の睡眠時間の分布の傾向を調べようと考え、次の表にまとめました。

全校生徒の睡眠時間の度数分布表				
階級(時間)		度数(人)	累積度数(人)	
以上	未満			
4	～ 5	1		
5	～ 6	14		
6	～ 7	75	ア	
7	～ 8	126		
8	～ 9	62		
9	～ 10	20		
10	～ 11	2		
合計		300		

全校生徒の睡眠時間の度数分布表の「ア」には最小の階級から6時間以上7時間未満の階級までの累積度数が入ります。「ア」に当てはまる値を求めなさい。

(正答) 90

○ 成果					
累積度数の意味を理解しているかどうかをみる問題					
自校		秋田県	51.2 (+5.2)	全国	46.0

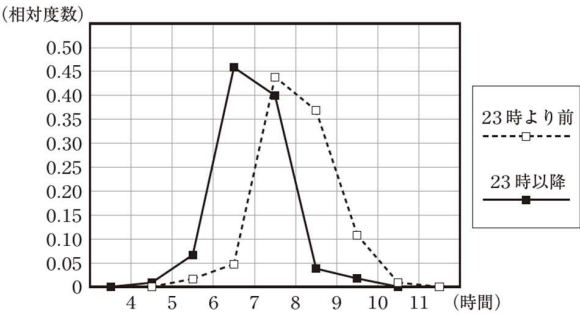
◇設問ごとの顕著な例【9(3)】【Dデータの活用】

9 保健委員の桃音さんと悠真さんは、自分たちの学校の生徒の睡眠時間の特徴について、保健だよりで報告することにした。そこで、全校生徒300人を対象に、ある日の起床時刻と就寝時刻を調査し、睡眠時間を調べました。

(3) 二人は、睡眠時間の特徴をさらに知りたいと思い、全校生徒を次のように分け、睡眠時間の分布の傾向を調べることにしました。(中略)

悠真さんが調べたこと

就寝時刻が23時より前の生徒・・・152人
就寝時刻が23時以降の生徒・・・148人



(正答例)
二つの度数分布多角形が同じような形で、就寝時刻が23時より前の生徒の度数分布多角形よりも、就寝時刻が23時以降の生徒の度数分布多角形の方が左側にある。

悠真さんが調べたことの2つの度数分布多角形を比較すると、「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、悠真さんが調べたことの2つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明します。前ページの桃音さんのまとめを参考にして、下の説明を完成しなさい。

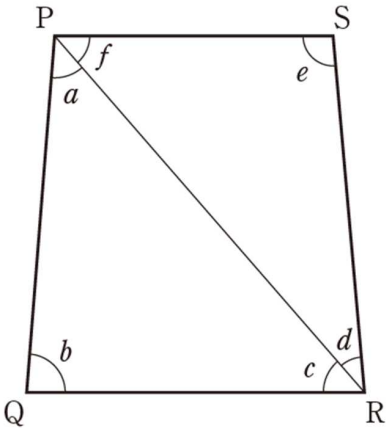
説明

したがって、就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある。

○ 成果					
データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明する問題					
自校		秋田県	39.2 (+7.3)	全国	31.9

◇設問ごとの顕著な例【3】【B図形】

下の図は、四角形PQRSに対角線PRをひいたものです。（中略） $\angle a$ から $\angle f$ までの6つの角のうち、ある2つの角の大きさが等しければ、 $PS \parallel QR$ であるといえます。その2つの角を書きなさい。



課題					
2直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる問題					
錯角が等しければ2直線が平行であることと平行四辺形の向かい合う角が等しいことを混同している誤答が見られました。					
自校		秋田県	45.9 (-3.2)	全国	49.1

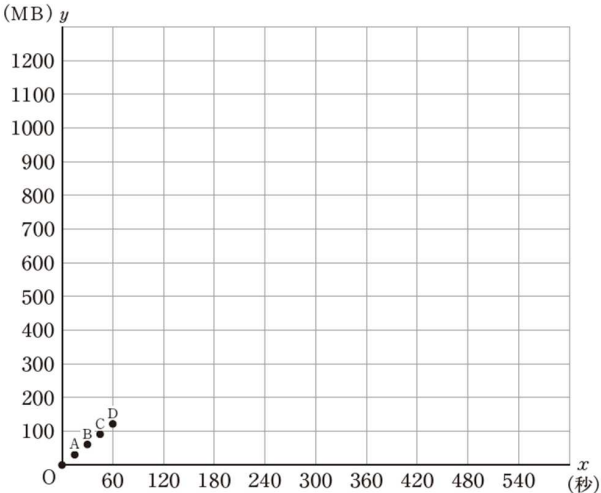
解答類型	秋田県	全国
◎ $\angle c$ と $\angle f$ を解答しているもの	45.9	49.1
$\angle a$ と $\angle d$ を解答しているもの	3.8	3.1
$\angle b$ と $\angle e$ を解答しているもの	26.2	24.4
上記以外の解答	22.4	20.6
無解答	1.8	2.8

☆改善に向けた取組のポイント
2直線が平行になるための条件についての理解を深めることが大切です。例えば、平行四辺形について学習した後に、本問の図を用いて、「四角形PQRSにおいて、 $\angle b = \angle e$ ならば $PS \parallel QR$ である」ことが常に成り立つかどうかについて考察する活動を取り入れ、向かい合う角が1組だけ等しくても、常に $PS \parallel QR$ になるとは限らないことを確認する場面を設定することが考えられます。

◇設問ごとの顕著な例【7(2)】【C関数】

光希さんのクラスでは、クラス紹介の動画を撮影することになりました。撮影する動画のデータ量は1000MB（メガバイト）までにすることになっています。（後略）

(2)（前略） 動画の時間とデータ量のグラフ



動画の時間とデータ量のグラフにおいて、原点Oから点Dまでの点が一直線上にあるとし、動画の時間を長くしても、動画の時間とデータ量の値の組を座標とする点が同じ直線上にあると考えます。

このとき、データ量が1000MBになるときの動画の時間はおおよそ何秒になるかを求める方法を、 x 座標や y 座標、 x の値や y の値など、 x や y を使って説明しなさい。ただし、実際に時間がおおよそ何秒になるかを求める必要はありません。

解答類型	秋田県	全国
◎ グラフを用いることについて正しく記述しているもの	15.0	11.9
◎ 式を用いることについて正しく記述しているもの	7.3	10.6
◎ 表や数値を用いることについて正しく記述しているもの	12.0	11.4
グラフ、式、表や数値を用いることは記述しているものの、その用い方を明示していないもの	25.5	21.6
無回答	33.6	39.6

課題					
数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題					
グラフ、式、表や数値を用いることは記述しているものの、その用い方を明示していない誤答が見られました。また、33.6%の生徒が無解答でした。					
自校		秋田県	34.3 (+0.4)	全国	33.9

☆改善に向けた取組のポイント
様々な問題を数学を通して解決する際に、問題解決の方法に焦点を当て、例えば、表、式、グラフ等をどのように利用したかについて、数学的な表現を用いて説明できるようにすることが大切です。その際、表現が不十分な説明を基に、より洗練された表現にするにはどうしたらよいか話し合う活動を取り入れることが考えられます。

◇数学の学習に関連する質問における特色

〔生徒質問(64)〕「前年度までに受けた授業では、数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていましたか」

○肯定的な回答をした生徒の割合	自校		秋田県	70.1 (+7.1)	全国	63.0
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

〔学校質問(49)〕「前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか」

○肯定的な回答をした学校の割合		秋田県	90.1 (+0.9)	全国	89.2
-----------------	--	-----	----------------	----	------

日常の事象と関連付けた指導の充実により、生徒が数学の有用性を実感し、学んだことを生活や学習に生かしていることが見取れます。

〔生徒質問(66)〕「前年度までに受けた授業では、数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか」

○肯定的な回答をした学校の割合		本県	73.7 (+13.3)	全国	60.4
-----------------	--	----	-----------------	----	------

数学の授業では、多様な考えを話し合う活動を通して学びを深める授業づくりが進められていることがうかがえます。

〔生徒質問(62)〕「数学の授業の内容はよく分かりますか」

●肯定的な回答をした生徒の割合	自校		秋田県	75.1 (+0.9)	全国	74.2
-----------------	----	--	-----	----------------	----	------

〔学校質問(52)〕「前年度までに、授業で、学習上つまずいた生徒に対する対応を行っていましたか」

●肯定的な回答をした学校の割合		秋田県	90.2 (-5.6)	全国	95.8
-----------------	--	-----	----------------	----	------

「数学の授業の内容はよく分かりますか」への肯定的な回答は昨年度より増加しました。しかし、約25%の生徒が否定的な回答をしています。生徒が「分かった」「できた」を実感できるよう、一人一人のつまずきに寄り添った授業改善に取り組む必要があります。

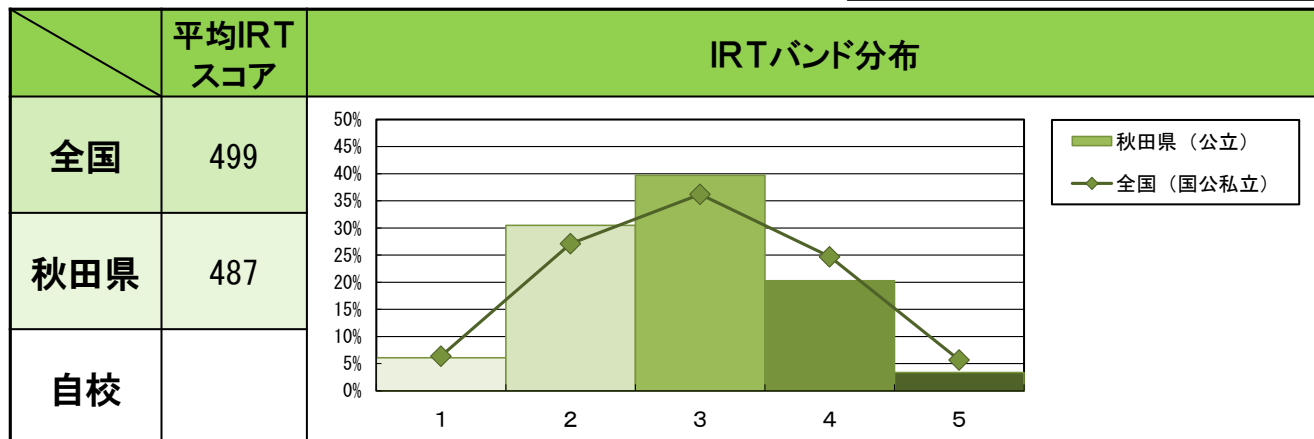
☆課題の改善と指導の充実に向けた取組のポイント

生徒が「分かった」を実感できるようにするために、誤答や不十分な説明、途中までの考え（図や式など）を意図的に取り上げるなどして困り感を共有し、つまずきの解消につながる学び合いを展開することが大切です。また、「できた」を実感できるようにするために、生徒が自身の達成状況を捉え、学習内容の確実な定着を図ったり、発展的な課題に挑戦したりできるような時間を、単元の中に設定する必要があります。

中学校第3学年 英語

◇平均IRTスコア・IRTバンド分布

本分析中において、「全国」は特に断りのない限り「全国(公立)」のデータを指します。



概要

- 「聞くこと」「読むこと・書くこと」の領域において、技能別平均正答数集計値が全国平均と同程度です。
- IRTスコアが、12ポイント全国の値を下回っており、全国と比べてIRTバンド2の割合が高く、IRTバンド4、5の割合が低くなっています。
- 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことや話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用することに課題が見られます。

中学校第3学年 英語 調査結果から見られた成果

◇設問ごとの顕著な例 [2]

【ショッピングセンター】

あなたは、カバンを買うために、ショッピングセンターに来ています。英語の案内放送を聞いて、あなたが行くべき階(floor)として最も適切なものを、解答欄の1から4までの中から1つ選びなさい。



<解答欄>

- ☐ 1 1st floor
- ☐ 2 2nd floor
- ☐ 3 3rd floor
- ☐ 4 4th floor

(正答) 3

【英語の音声スクリプト】

Welcome to our shopping center. This is the floor guide. On the first floor, we have some restaurants. Also, we have a supermarket. On the second floor, we have shops for computers, phones, and video games. On the third floor, we have a bookstore. On the same floor, we have many shops for bags, clothes, and shoes. On the fourth floor, you will find a movie theater. We hope you'll enjoy shopping today.

○ 成果

日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取る問題

自校		秋田県	79.1 (+0.6)	全国	78.5
----	--	-----	----------------	----	------

◇設問ごとの顕著な例【7】

あなたは、友達のナナ(Nana)の誕生日パーティーのために料理をするのを手伝います。主催者のジェーン(Jane)からの【メール】を読み、あなたがジェーンの家に行く時刻を、＜解答欄＞の1から4までの中から1つ選びなさい。

【メール】

About Nana's Birthday Party

Date: April 20

From: Jane

Hi, friends,
This is Jane.
Here's some information about Nana's birthday party.
Date: Saturday, April 25
Time: The party starts at 11:30 a.m.
Please don't arrive before 11:15 a.m., because we will set up for the party.
Place: My house
If you can help, please read the information below.
Please come at 10:00 a.m. to cook for the party.
Please come at 10:30 a.m. to prepare the games.
I hope Nana will have a good time with everyone.
Your best friend,
Jane

＜解答欄＞

☐ 1 10:00 a.m.

☐ 2 10:30 a.m.

☐ 3 11:15 a.m.

☐ 4 11:30 a.m.

(正答) 1

(注) below : 下の

○ 成 果					
日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取る問題					
自校		秋田県	73.8 (+1.4)	全国	72.4

◇設問ごとの顕著な例【13】

あなたは、留学生のトム(Tom)と仲良くなるために、交流会で一緒にしたいことをクラスに提案することになりました。「トムと一緒にしたいことを1つ取り上げ」、「なぜそれをしたいのか」を、15語以上30語以内の英語で書きなさい。なお、交流会でしたいことは下の【例】を参考にしてもかまいません。



(正答例)

I want to cook curry and rice with Tom.
We cooked curry and rice at our school camp, so we can teach him. I think he will like it. (29語)

○ 成 果					
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く問題					
自校		秋田県	47.8 (+3.8)	全国	44.0

◇設問ごとの顕著な例【1】

レストランでの店員と客の会話を聞いて、客が注文したものを、解答欄の1から4までのの中から1つ選びなさい。

【レストランでの店員と客の会話】



<解答欄>

○ 1

○ 2

○ 3

○ 4

(正答) 3

【英語の音声スクリプト】

店員: Would you like some cake? We have cheesecake and chocolate cake today.
客: Well, I love cheesecake, but I cannot eat any more food. Can I have a cup of coffee?
店員: Of course. Any sugar and milk?
客: Yes, please.

☆改善に向けた取組のポイント

音声を聞き、話された内容を理解するためには、特定の情報のみを聞いて判断したり推測したりするのではなく、その前後の情報も合わせて聞き取ることが大切です。例えば、聞いた内容を、自分の言葉で相手に伝える活動を行うことが考えられます。

▲ 課 題

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して聞く問題

自校		秋田県	58.4 (-1.8)	全国	60.2
----	--	-----	----------------	----	------

◇設問ごとの顕著な例【9】

次の文章は、留学生(exchange student)のジャック(Jack)が日本の学校で体験したことを題材にした【物語】です。
「【物語】の**はじめから終わりまで、ジャックの気持ちがどのように変化したかをまとめたもの**」として最も適切なものを、
<解答欄>の1から4までのの中から1つ選びなさい。

【物語】

Jack studied Japanese at school when he was in Australia. The school decided to send him to Japan as an exchange student, so he was excited about studying in Japan.

At school in Japan, Jack made a short speech in Japanese. When he was speaking Japanese, he made mistakes. He thought his classmates did not understand his speech. He felt sad, but he finished his speech.

Later at lunch time, a girl came to Jack and said, "I'm Misato. Your speech was great! I was able to understand your Japanese." Jack smiled and said, "Thank you for your kind words." He felt happy. After that, he tried to use Japanese more.

<解答欄>

- 1 Jack was excited about studying in Japan.
At school in Japan, he felt happy when he heard Misato's kind words.
Later, he felt sad during his speech in Japanese.
- 2 Jack studied Japanese at school in Australia.
At school in Japan, he felt happy when he heard Misato's kind words.
Later, he felt sad during his speech in Japanese.
- 3 Jack was excited about studying in Japan.
At school in Japan, he felt sad during his speech in Japanese.
Later, he felt happy when he heard Misato's kind words.
- 4 Jack studied Japanese at school in Australia.
At school in Japan, he felt sad during his speech in Japanese.
Later, he felt happy when he heard Misato's kind words.

(正答) 3

▲ 課 題

日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉える問題

自校		秋田県	46.0 (-3.0)	全国	49.0
----	--	-----	----------------	----	------

☆改善に向けた取組のポイント

物語を読んで、概要を捉えるためには、特定の部分にのみとらわれることなく、登場人物の行動や気持ちの変化、全体のあらすじなど、大まかな内容を捉えることが大切です。例えば、物語などの文章全体を読んだ上で、時系列に情報を整理したり、物語の概要をペアやグループなどで伝え合ったりする活動を行うことが考えられます。

◇設問ごとの顕著な例【10(1)】

中学生のまいこ(Maiko)が英語の授業でインターネットの使用に関する文章を書きました。

(1)【まいこが書いた文章】を読み、まいこが最も伝えたいことを、＜解答欄＞の1から4までのの中から1つ選びなさい。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

Do you think my opinion is good?

＜解答欄＞

☐ 1 Many junior high school students use the internet to play games.

☐ 2 Junior high school students should use the internet for learning more often.

☐ 3 There are many good videos for learning English.

☐ 4 We can find the meaning of an English word quickly.

(正答) 2

▲ 課 題					
社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉える問題					
自校		秋田県	44.4 (-3.1)	全国	47.5

☆改善に向けた取組のポイント

意見文を読んで、要点を捉えるためには、文と文との関係に着目し、「書き手が最も伝えたいこと」と、それを支える理由を分けて捉えることが大切です。例えば、スピーチ、新聞、ホームページなどへの投稿文の形式で書かれた文章を読んだ後で、書き手が最も伝えたいことは何か、なぜそう考えたのかを話し合う活動を行うことが考えられます。

◇設問ごとの顕著な例【11②】

留学生のメイ(Mei)に昨日の出来事について質問し、分かったことを下の【表】にまとめました。【表】を見て、例を参考にしながら、①メイが行った場所、②メイがしたことを、それぞれ英文1文で書きなさい。

【表】

例	メイが起きた時刻	7時 (seven)
①	メイが行った場所	公園 (the park)
②	メイがしたこと	テニス (tennis)

＜解答欄＞

例 Mei got up at seven.

(正答例)
Mei played tennis.

▲ 課 題					
規則動詞の過去形を用いた平叙文を正確に書く問題					
自校		秋田県	45.1 (-7.6)	全国	52.7

☆改善に向けた取組のポイント

正確に書くためには、場面や状況から活用すべき文法事項などを判断することが求められます。例えば、日記を書いたり、絵や写真の状況を説明したりするなど、ある場面と関連付けて文法事項などを活用して書く活動を行うことが考えられます。また、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、適切な主語は何かなどを考えて、文構造を意識して文章を書く活動を行うことも大切です。

◇設問ごとの顕著な例【15(2)a】

この問題は(1)と(2)の2問あります。この問題では、話す準備をする時間はありません。動画に出てくる吹き出しはあなたが伝えたいことを表しています。

あなたは、明日、留学生のサラと遊ぶ予定です。これから明日の天気予報を確認して、明日のことについてサラと電話で話すところです。

(2) サラがこのあとあなたに質問します。吹き出しの中に示されているイラストを見て、質問に対して、英語で答えましょう。

【解答時間 15秒】



あなた



サラ

解答を始めてください。



【英語の音声スクリプト】

What will we do tomorrow?

(正答例)
We will play video games tomorrow.

▲ 課題					
音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話す問題					
自校		秋田県	24.1 (-9.4)	全国 (国公立)	33.5

☆改善に向けた取組のポイント

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話す技能を身に付けるためには、ペアやグループで即興でやり取りをした後、どのような表現を用いたらよいかという言語面の充実を図ることが大切です。例えば、分からなかった表現を学級全体で確認したり、特定の表現を取り上げて言語の働きに着目して発話を修正したりする活動を行うことが考えられます。

中学校第3学年 英語 質問調査の結果から

◇英語の学習に関連する質問における特色

[生徒質問 (77-2)] 「前年度までに受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか」						
○肯定的な回答をした生徒の割合	自校		秋田県	83.9 (+5.6)	全国 (国公立)	78.3
[生徒質問 (79)] 「前年度までに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか」						
○肯定的な回答をした生徒の割合	自校		秋田県	89.5 (+6.7)	全国	82.8
[学校質問 (59)] 「調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動を行いましたか」						
○肯定的な回答をした学校の割合			秋田県	95.1 (+3.5)	全国	91.6

〔学校質問(56)〕 「調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点を捉える言語活動を行いましたか」

●肯定的な回答をした学校の割合

秋田県

94.1
(-2.4)

全国

96.5

〔生徒質問(77-3)〕 「前年度までに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興
〔学校質問(57)〕 で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか（学校質問：行いましたか）」

●肯定的な回答をした生徒の割合

自校

秋田県

63.2
(+6.5)

全国
(国公立)

56.7

●肯定的な回答をした学校の割合

秋田県

76.5
(-2.1)

全国

78.6

〔生徒質問(76)〕 「家庭学習の課題（宿題）として、どの程度ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ
〔学校質問(65)〕 機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか（学校質問：英語の学習をどの程度行わせていますか）」

●週１回以上程度以上と回答した生徒の割合

自校

秋田県

19.0
(-5.5)

全国

24.5

●週１回以上程度以上と回答した学校の割合

秋田県

10.7
(-27.9)

全国

38.6

☆課題の改善と指導の充実に向けた取組のポイント

- ・生徒質問及び学校質問の結果では、「英文を読んで概要や要点を捉える言語活動が行われた（行った）」「自分の考えなどを英語で書く言語活動が行われた（行った）」と肯定的に回答している生徒や学校の割合が高い傾向にあります。一方で、教科に関する調査において、文章を読んで概要や要点を捉えることや、簡単な語句や文を用いて正確に英文を書くことに課題が見られます。領域統合型の言語活動を計画的・継続的に設定するなど、言語活動の更なる充実を図り、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を一体的に育成していくことが求められます。また、言語活動を行う際は、言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行い、簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図る必要があります。さらに、「原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われた（行った）」と肯定的に回答している生徒と学校の割合に差が見られることから、言語活動を行う目的を生徒に十分に理解させた上で取り組ませることが大切です。
- ・平均ＩＲＴスコアとのクロス集計の結果から、「家庭学習の課題（宿題）として、ＩＣＴ機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしている」頻度が高い生徒ほど、スコアが高い傾向が見られます。経年変化の結果から、同質問項目に対して週１回程度以上使っていると回答した生徒は、令和５年度比＋２.２ポイントとやや増加しているものの、全国と比べ下回っています。生徒が授業における言語活動と関連付けて家庭学習に取り組む機会を設定し、音声、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けさせることが大切です。例えば、授業において、学習者用デジタル教科書などを活用して自分に合った方法で学習できるよう具体的に指導した上で、家庭においても生徒がＩＣＴ機器などを活用しながら主体的に学習できるよう促すことが考えられます。

質問調査

質問調査の結果には、多くの質問項目で本県の肯定的な回答の割合が全国平均を上回っている状況が見られます。

- 全体として、児童生徒が望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けていると考えられます。
- 豊かな人間性等に関わる質問項目においては、児童生徒に自己肯定感や他を思いやる心が醸成されている様子とともに、地域や社会への関心をもち、貢献したいという気持ちがあることがうかがえます。
- 授業等の教育活動においては、課題解決に向けて、児童生徒が、自ら考え主体的に学習に取り組むことや、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができています。その一方で、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫していると回答した学校の割合が、全国平均を下回っています。
- ＩＣＴを活用した学習状況においては、ＩＣＴ機器の活用頻度（ほぼ毎日）が、小学校で全国平均をわずかに下回っているものの、ＩＣＴ機器の活用では、児童生徒が自信をもっていることがうかがえます。

※数値は、上段：「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合の合計（％）

下段：肯定的な回答のうち「当てはまる」等と回答した割合（％）

※◆は文部科学省の教育振興基本計画（令和5年6月16日閣議決定）の指標において、主観的ウェルビーイングの向上に関連すると考えられる質問事項

生活習慣

児童生徒質問調査	自校	小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
朝食を毎日食べていますか。		94.5 (85.6)	+ 1.2 (+ 2.5)	93.7 (82.5)	+ 2.8 (+ 4.1)
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。		92.7 (60.5)	+ 2.0 (+ 4.6)	94.1 (61.3)	+ 1.7 (+ 5.9)

学習習慣、家庭学習

児童生徒質問調査	自校	小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。		(30分以上) 89.6 (85.6)		(1時間以上) 68.1 (68.1)	
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。		(1時間以上) 62.4 (62.4)		(2時間以上) 42.7 (42.7)	
学校質問調査		小学校		中学校	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか。		98.8 (67.1)	+ 2.2 (+17.7)	97.0 (48.0)	+ 5.8 (+14.6)
前年度までに、家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか。		98.2 (54.3)	+ 7.1 (+15.3)	98.0 (48.0)	+13.0 (+21.2)

豊かな人間性等

児童生徒質問調査	自校	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
自分には、よいところがあると思いますか。◆		88.4 (46.1)	+ 2.8 (+ 2.5)	86.2 (42.9)	+ 2.2 (+ 1.9)
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。◆		92.4 (55.8)	+ 1.0 (+ 2.4)	92.1 (51.1)	+ 1.2 (+ 4.4)
将来の夢や目標を持っていますか。◆		86.6 (64.3)	+ 4.8 (+ 5.7)	74.6 (44.8)	+ 7.0 (+ 7.4)
人が困っているときは、進んで助けていますか。◆		94.3 (49.6)	+ 1.6 (+ 2.3)	93.0 (45.1)	+ 2.2 (+ 4.3)
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。◆		72.8 (35.9)	+ 2.2 (+ 2.0)	72.6 (36.0)	+ 0.7 (+ 2.6)
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。◆		81.7 (35.2)	+ 3.8 (+ 3.3)	84.8 (39.4)	+ 6.2 (+ 7.4)
友達関係に満足していますか。◆		92.0 (66.0)	+ 0.9 (+ 3.3)	92.4 (59.5)	+ 1.2 (+ 3.0)
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。◆		92.9 (55.7)	+ 0.4 (+ 1.0)	91.7 (51.0)	+ 0.7 (+ 4.9)
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。◆		86.9 (41.7)	+ 6.8 (+ 9.8)	83.8 (34.8)	+11.5 (+12.7)

授業等の教育活動

児童生徒質問調査	自校	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。		81.8 (32.2)	+ 4.2 (+ 3.9)	84.2 (32.5)	+ 5.4 (+ 5.5)
前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。		87.1 (41.9)	+ 6.3 (+ 7.0)	84.7 (33.0)	+ 5.8 (+ 7.7)
学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。		89.0 (49.3)	+ 3.3 (+ 5.8)	92.1 (51.3)	+ 5.1 (+11.7)
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。		84.3 (39.2)	+ 5.9 (+ 7.8)	85.4 (38.6)	+ 6.4 (+ 9.3)
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。		86.3 (43.2)	+ 5.5 (+ 8.2)	85.6 (38.0)	+ 7.6 (+ 9.7)

学校質問調査	小学校		中学校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。	93.9 (21.3)	+ 5.8 (+ 0.9)	87.2 (22.5)	± 0.0 (+ 3.4)
前年度までに、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか。	90.2 (25.0)	－ 1.0 (－ 3.2)	74.5 (15.7)	－13.0 (－ 7.7)
前年度までに、学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか。	94.5 (31.7)	－ 0.7 (－ 2.7)	97.1 (37.3)	+ 2.5 (+ 6.0)
前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。	89.1 (16.5)	+ 1.0 (－ 4.9)	85.3 (16.7)	－ 0.8 (－ 3.0)
前年度までに、関連する既習事項を振り返り、知識を総合的に関連付ける学習活動を行いましたか。 [新規]	90.9 (22.0)	－ 0.8 (－ 5.0)	93.1 (18.6)	+ 2.5 (－ 4.7)
前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。	87.2 (12.2)	+ 0.2 (－ 6.5)	76.5 (5.9)	－ 3.4 (－ 9.1)

ICTを活用した学習状況

児童生徒質問調査	自校	小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。		(ほぼ毎日(複数の授業)) 19.3		(ほぼ毎日(複数の授業)) 34.1	
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができますか。		82.4 (51.8)	+ 3.3 (+ 2.3)	88.4 (56.1)	+ 3.6 (+ 3.5)
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができますか。		73.0 (35.5)	+ 3.5 (+ 2.7)	72.2 (33.0)	+ 2.8 (+ 1.0)
学校質問調査		小学校		中学校	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。		(ほぼ毎日(複数の授業)) 51.8		(ほぼ毎日(複数の授業)) 50.0	
児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。		(ほぼ毎日) 18.9		(ほぼ毎日) 23.5	
児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。		(ほぼ毎日) 13.4		(ほぼ毎日) 17.6	
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。		(毎日～時々) 73.8		(毎日～時々) 64.7	

家庭や地域との関わり

学校質問調査	小学校		中学校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
(小学校) 職場見学を行っていますか。 (中学校) 前年度に、職場体験活動を何日程度行いましたか。	(行っている) 51.8		(1日以上) 92.2	
コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか。	97.0 (40.9)	+ 7.9 (+ 4.4)	90.2 (32.4)	+ 5.8 (+ 4.4)

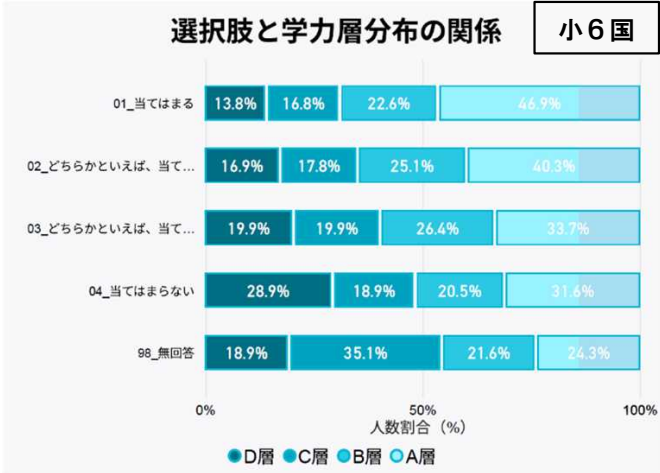
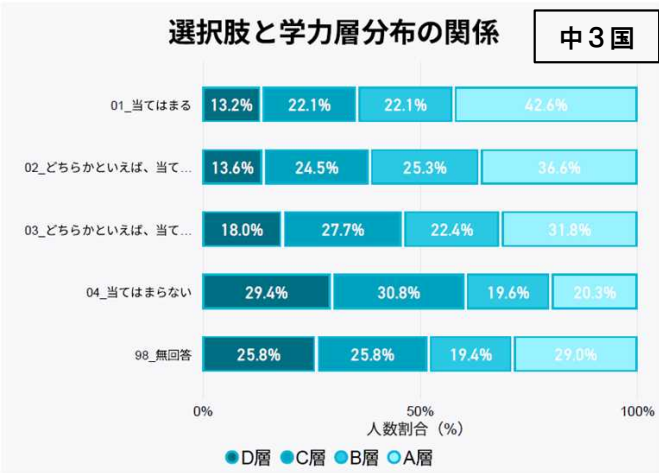
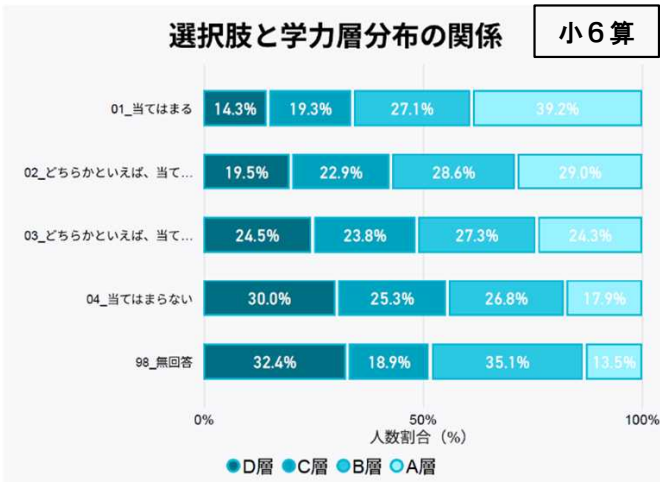
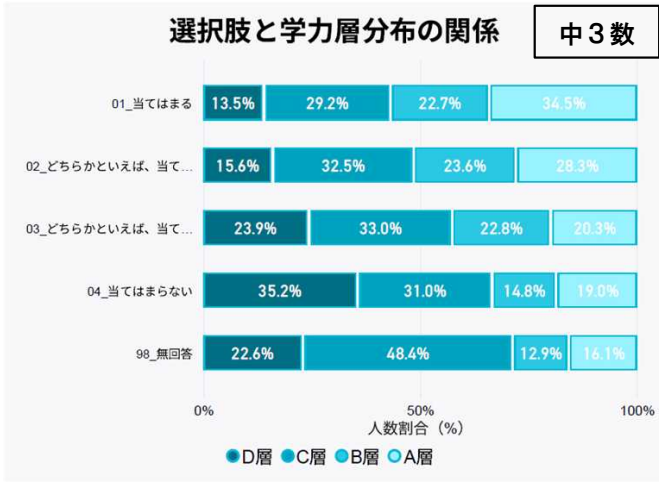
児童・生徒質問調査と教科調査の関係

分析ツール（Power BI レポートテンプレート）を使い、児童・生徒質問の回答と教科調査結果の関係を分析しています。

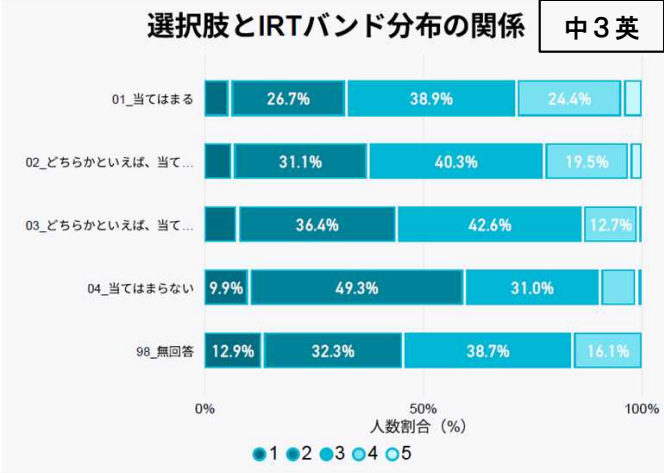
選択肢と学力層分布の関係: グラフは選択肢ごとに学力層がどのように分布しているかを表示している
A～D層: 児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つの層に分けたもの

質問項目：自分とちがう意見について考えるのは楽しい。

選択肢：（1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない）



「自分とちがう意見について考えるのは楽しい」に対して、肯定的に捉えている児童生徒のA層及びIRTバンド5の割合が高くなっています。
児童生徒が他者との協働によって、自分の考えを広げたり深めたりすることに自覚的に取り組めるよう、見通しをもつ場面や学びを振り返る場面を引き続き充実させていくことが大切であると考えられます。

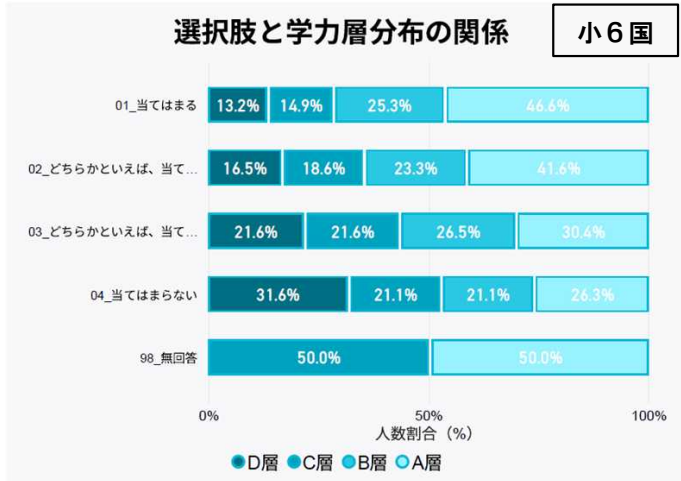
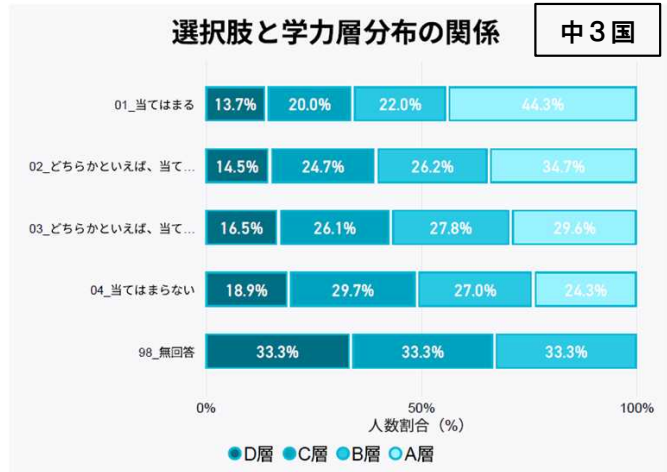
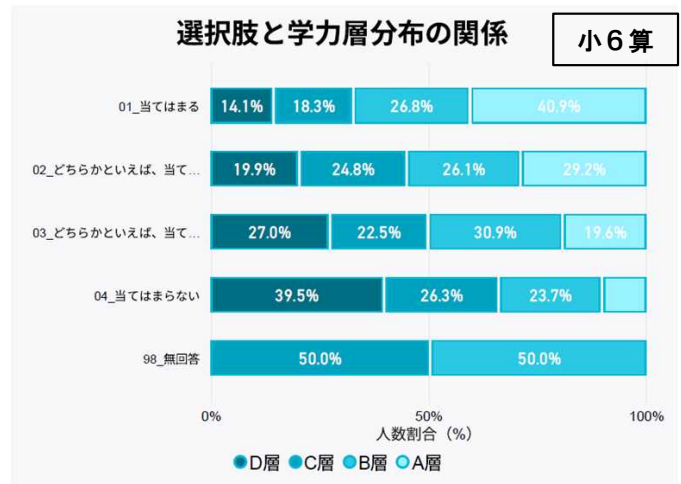
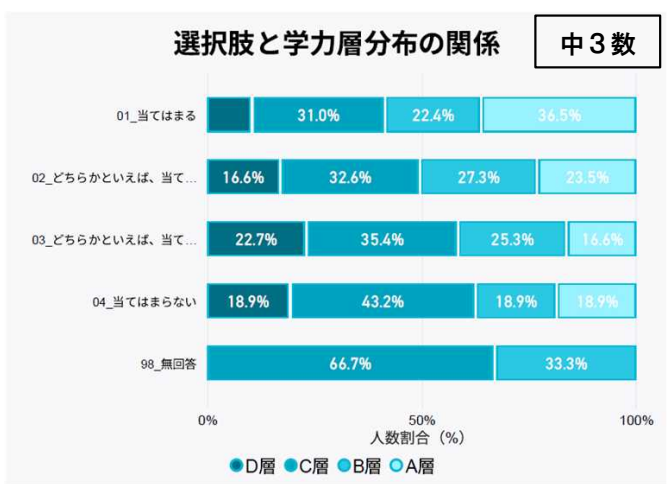
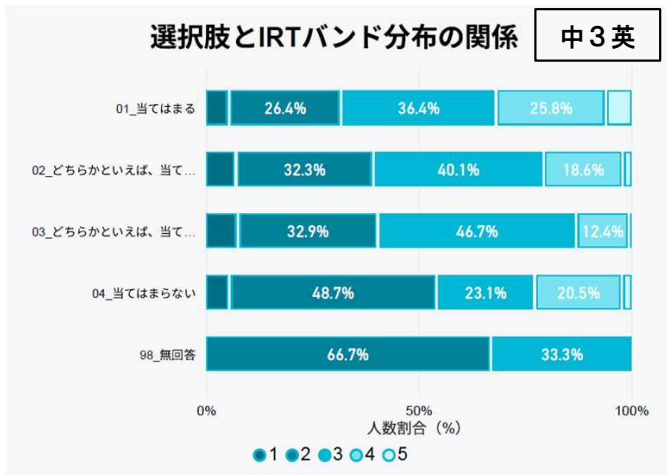


児童・生徒質問調査と教科調査の関係

質問項目：物事の仕組みを知ることは好きだ（ランダム方式の質問項目）

選択肢：（1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない）

ランダム方式：全体の傾向を把握することを主目的とする質問項目について、あらかじめ設定された複数の項目の中から、児童生徒ごとにランダムに一部の項目を割り当てて回答させる仕組み



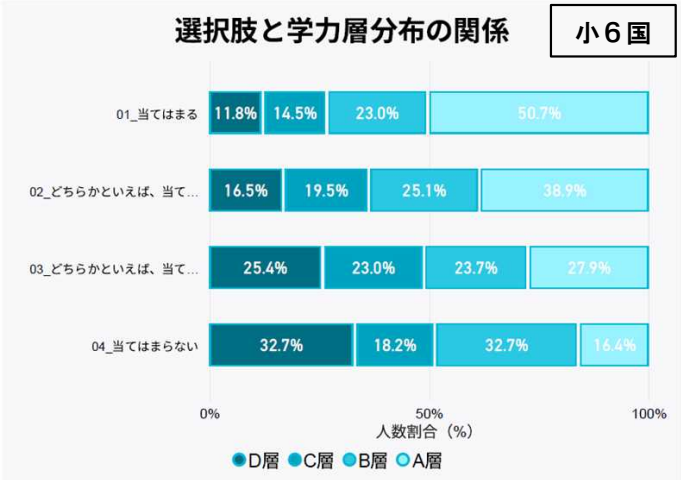
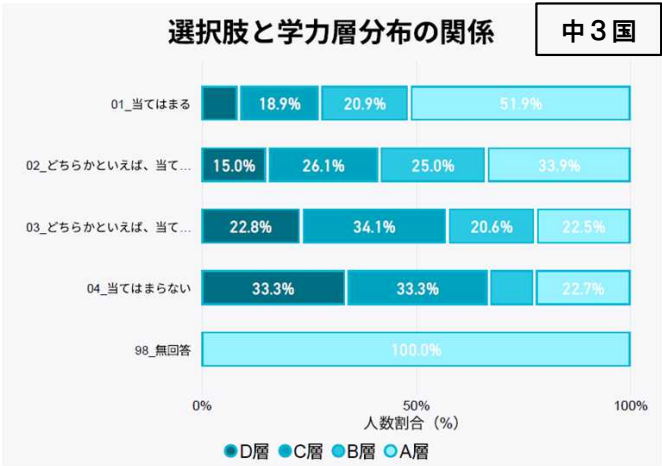
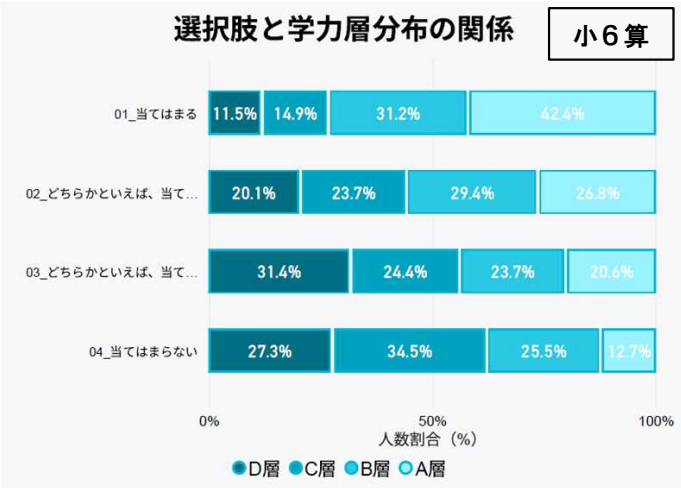
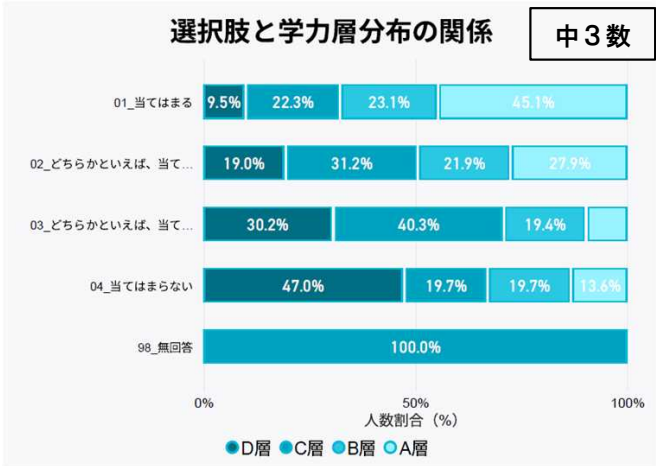
「物事の仕組みを知ることは好きだ」に対して、肯定的に捉えている児童生徒のA層及びIRTバンド5の割合が高くなる傾向があります。

児童生徒が目の中の事象に対して、自ら疑問をもち追究することが資質・能力を高めていく原動力となるため、「『問い』を発する子ども」の育成を目指した取組を一層充実させていくことが大切であると考えられます。

児童・生徒質問調査と教科調査の関係

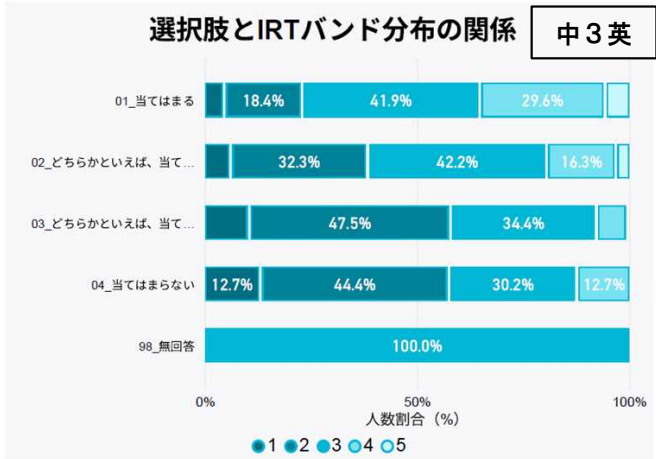
質問項目：問題の解決策を見つけることは好きだ（ランダム方式の質問項目）

選択肢：（1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない）



「問題の解決策を見つけることは好きだ」に対して、肯定的に捉えている児童生徒のA層及びIRTバンド5の割合が高くなっています。

児童生徒が自ら考えて解決方法を見通し、試行錯誤を重ねる中で最適解や納得解に至ることが、資質・能力の確かな定着に欠かせないものと考えられます。



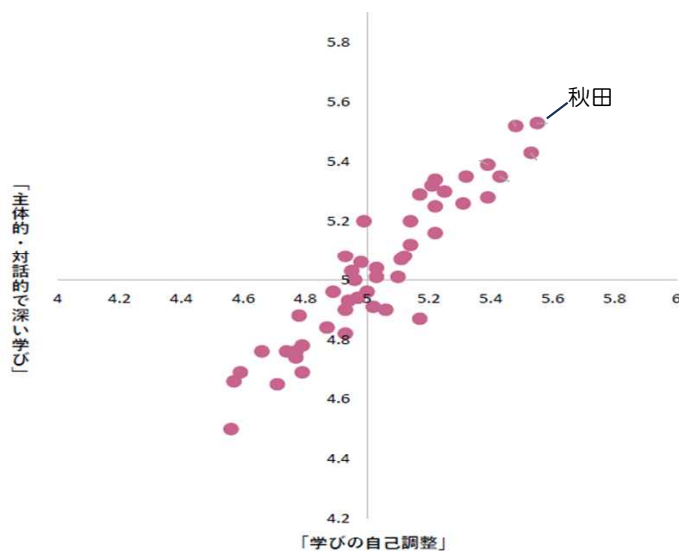
質問調査項目同士の相互関係を示す散布図【都道府県（指定都市を含む）】

【主体的・対話的で深い学び】×【学びの自己調整】

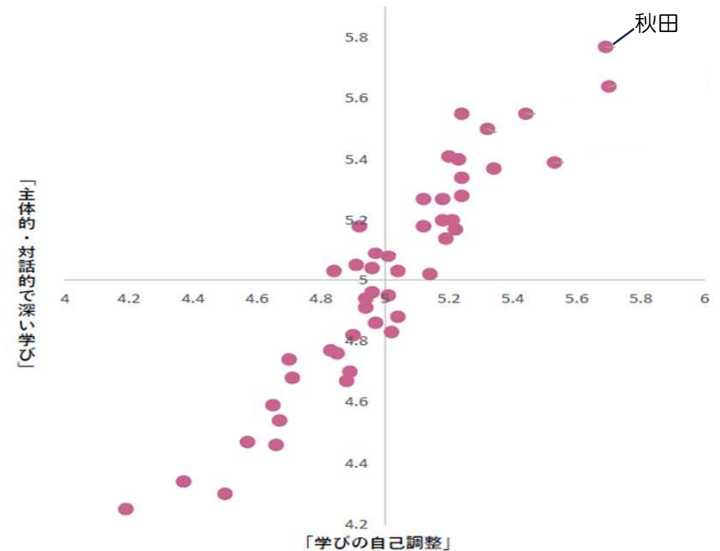
学びの自己調整について肯定的に回答している児童生徒が多い都道府県では、主体的・対話的で深い学びにつながる取組や授業を受けたと回答した児童生徒が多い傾向が見られ、「学びの自己調整」と「主体的・対話的で深い学び」は相互に関連する可能性があります。

縦軸：児童生徒質問調査における「主体的・対話的で深い学び」（38～42、44、46）の回答状況を得点換算したもの。
横軸：児童生徒質問調査における「学びの自己調整」（22、43）の回答状況を得点換算したもの。
縦軸、横軸ともに全国（公立）平均が5.0となるように標準化しており、その値が大きいくほど、当該領域において肯定的な回答割合が高いことを意味している。

【小学校】



【中学校】

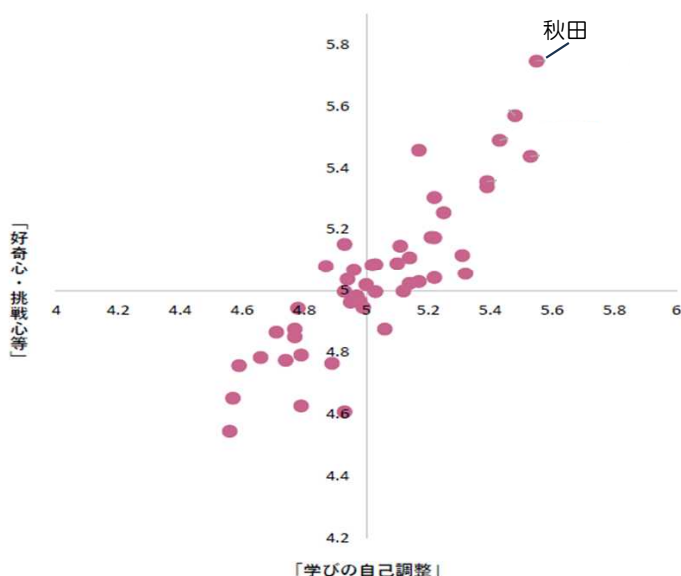


【好奇心・挑戦心等】×【学びの自己調整】

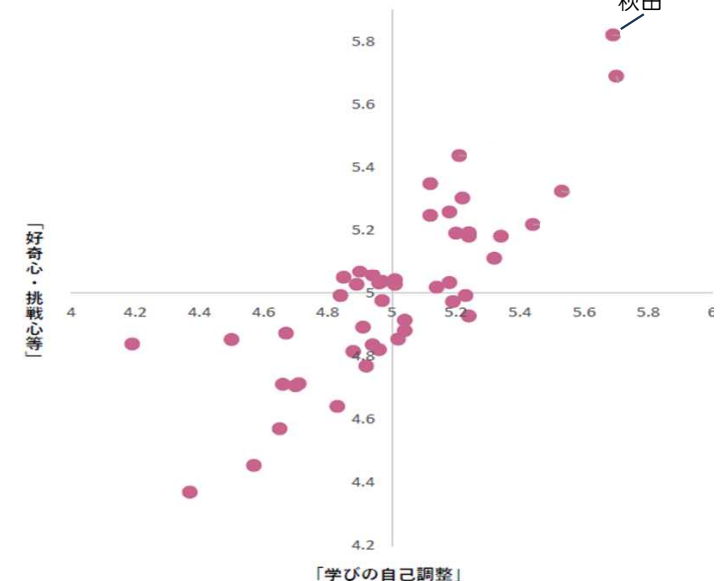
自らの学習を調整する児童生徒の割合が高い都道府県では、好奇心をもって新しい課題に挑戦しようとする児童生徒が多い傾向が見られ、「学びの自己調整」と「好奇心・挑戦心等」は相互に関連する可能性があります。

縦軸：児童生徒質問調査における挑戦心・好奇心等に関する質問（18-1～19-3）の回答状況を得点換算したもの。
横軸：児童生徒質問調査における「学びの自己調整」（22、43）の回答状況を得点換算したもの。
縦軸、横軸ともに全国（公立）平均が5.0となるように標準化しており、その値が大きいくほど、当該領域において肯定的な回答割合が高いことを意味している。

【小学校】



【中学校】



一人一人の学力を伸ばすあきたの学校 ～5つのエッセンス～

県教育委員会では、全国学力・学習状況調査の結果を基に、「安定した成果を示している学校」「課題の改善状況が顕著である学校」がもつ特長から、学力向上を支える関連因子を見付け、それらを「一人一人の学力を伸ばすあきたの学校 ～5つのエッセンス～」としてまとめてきました。各学校においては、この「5つのエッセンス」を、児童生徒の一層の学力向上に活用していただければ幸いです。

1 学校体制でPDCAサイクルを生かした共同研究

学校質問調査では、自校の調査結果を全職員で共有し、調査対象学年・教科だけでなく学校全体で教育活動を改善するために活用している学校が大多数を占めており、本県が提唱する全国学力・学習状況調査、秋田県学習状況調査、高校入試を一体と捉えた検証改善システムの充実が進んでいます。

2 子どもたちが安心して学習できる環境づくり

児童生徒質問調査では「自分にはよいところがある」「先生は、自分のよいところを認めてくれる」「将来の夢や目標を持っている」などが全国の結果を上回っています。これは子どもたちの前向きな姿勢とともに、一人一人のよさや可能性を認め、自己肯定感や自己有用感を育もうと工夫を重ねる本県の教職員・学校による、共感的で温かな学習環境づくりが生み出した成果です。

3 子どもたちの思考を促し深める探究型の授業づくり

本県では、児童生徒が問題を発見し話し合うなど、他者との関わりを通して、主体的に問題を解決する探究型授業が盛んです。児童生徒質問調査では「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」などが全国の結果を上回っています。今後は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、ICTを適切な場面で効果的に活用しながら授業改善を進め、児童生徒一人一人の学びの質を高めることが一層求められます。

4 自発的な学習を生み出すきめ細かな指導

子どもたちに確かな資質・能力を身に付けさせるためには、児童生徒の実態を踏まえ、自発的な学習を促す指導の工夫が大切です。学校質問調査では、「家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教える指導」や「児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決める活動」について、「よく行った」とする学校の割合が全国を大きく上回るなど、自発的な学びを育む取組に確かな成果が見られます。今後更なる学力向上を目指し、一人一人に応じた学習課題の設定や補充的・発展的な学習の充実を図るとともに、「『問い』を発する子ども」の育成に向けた指導などに、検証改善サイクルの下、全校体制で組織的・継続的に取り組むことが求められます。

5 豊かな教育力を生む学校・家庭・地域の強い連携

学校・家庭・地域等のオール秋田でつくってきたすばらしい教育環境が、本県の教育の強みです。子どもたちの授業に向かう姿勢、家庭学習の充実なども、それと関わりがあります。本県では、学校から家庭や地域への働き掛け・呼び掛けが特に丁寧にされており、学校・家庭・地域の強い連携を生み出しています。

令和8年度秋田県検証改善委員会

全国学力・学習状況調査等の活用に係る委員一覧

成 田 雅 樹	秋田大学大学院教育学研究科教授	熊 谷 亜希子	中央教育事務所由利出張所指導主事
佐々木 雅 子	秋田大学大学院教育学研究科教授	佐 藤 麻 希	南教育事務所指導主事
加 藤 勝 則	秋田大学大学院教育学研究科特別教授	佐 藤 和歌子	南教育事務所雄勝出張所指導主事
原 田 勇 希	秋田大学教育文化学部講師	戸 嶋 里枝子	高校教育課指導主事
古 屋 桃 香	義務教育課長	佐 藤 整	義務教育課指導主事
真 崎 敦 史	義務教育課チームリーダー	藤 原 正 貴	義務教育課指導主事
佐々木 修 一	義務教育課副主幹	矢 吹 敦	義務教育課指導主事
荒 川 孝 洋	北教育事務所指導主事	伊 藤 真 子	義務教育課指導主事
市 川 聖 子	北教育事務所指導主事		

※敬称略 職名は令和8年10月現在